

高校公民プリント（過去問類似）
公共、倫理（2025年～の共通テスト本試験）
No.8

名前

得点

/10

問1 日本社会において、人々は季節の移り変わりや生活の節目において、様々な慣習や儀礼を行ってきた。誕生や成人、結婚などのように、個人の生涯における節目の段階ごとに行われる儀礼とは異なり、毎年特定の時期に繰り返され、共同体の連帯感を高めたり季節感を確認したりする、初詣や節分、お彼岸などの伝統的な慣習や行事を何と呼ぶか。（2026年 全国公立入試 類似）

1. 祖先崇拜 2. 年中行事 3. 冠婚葬祭 4. 通過儀礼

問2 キリスト教的な同情や平等を重んじる既成の道徳を、弱者が強者に対して抱く怨恨から生じた「奴隷道徳」であると批判し、人間本来の生命力や「カへの意志」に基づく生の肯定を説いた、19世紀後半のドイツの哲学者は誰か。（2026年 全国公立入試 類似）

1. ニーチェ 2. ヤスパース 3. マルセル 4. サルトル

問3 アメリカの生態学者によって提唱された、人間を自然の征服者ではなく、土壌や水、動植物からなる生態系という共同体の一員と位置づけ、それら全体を道徳的配慮の対象とする環境倫理思想を何というか。（2026年 全国公立入試 類似）

1. 環境正義 2. 生命倫理 3. 土地倫理 4. 地球倫理

問4 ドイツ出身の医師・神学者であるシュヴァイツァーが提唱した、自己の存在を維持しようとする意志と同様に、他者や他の生物も「生きようとするもの」であると考え、あらゆる存在に対して愛と尊敬を抱き、それを尊ぶことを人間の根源的な責任とする倫理思想を何というか。（2026年 全国公立入試 類似）

1. 自然の権利 2. 人間中心主義 3. 責任の原理 4. 生命への畏敬

問5 「ソクラテスは死んだ」「プラトンは死んだ」「アリストテレスは死んだ」という個別の事実の観察から、「すべての人間は死ぬ」という一般的な法則を導き出すような、経験的な事例に基づき一般的な結論を得る推論方法を何というか。（2025年 全国公立入試 類似）

1. 懐疑法 2. 演繹法 3. 弁証法 4. 帰納法

問6 実験と観察を重視し、自然現象を数式による因果法則として解明しようとしたイタリアの科学者が、地動説を擁護したことで宗教裁判にかけられる契機となった、1632年に刊行された名著は何か。（2025年 全国公立入試 類似）

1. 方法序説 2. 天文対話 3. 哲学書簡 4. 統治二論

問7 14世紀から16世紀にかけてのヨーロッパでは、中世の神中心の価値観から脱却し、古典古代の文化を手がかりに、人間のありのままの姿や現実世界の美しさを肯定しようとする文芸・芸術上の革新運動が起こった。この運動の根底にあり、人間の尊厳や個性を重んじる人間中心の精神を何というか。（2025年 全国公立入試 類似）

1. プラトニズム 2. ネオプラトニズム 3. マキャベリズム 4. ヒューマニズム

問8 人為的な道徳や社会的規範を否定し、宇宙の根源である「道（タオ）」に従って生きる「無為自然」を理想とした思想において、美と醜のような価値判断は、一方が存在することでもう一方が規定される相対的かつ逆説的な関係にすぎないと批判される。このような思想を展開した、中国古代の諸子百家の一派は何か。（2025年 全国公立入試 類似）

1. 道家 2. 法家 3. 儒家 4. 墨家

問9 平安中期の日本では、末法思想の到来とともに、阿弥陀仏の救いを求める浄土信仰が盛んになった。この時期に、地獄と極楽の様相を対比的に描き出し、仏の姿や極楽を心に思い描く「観想念仏」を重視して、のちの鎌倉仏教の先駆となった僧侶は誰か。（2026年 全国公立入試 類似）

1. 空也 2. 源信 3. 空海 4. 最澄

問10 人間は自然の征服者ではなく、土壌、水、植物、動物からなる生物共同体の一員にすぎないとし、それら全体を道徳的配慮の対象とする倫理思想を著書『野生のうたが聞こえる』などで提唱した、アメリカの森林官・生態学者は誰か。（2026年 全国公立入試 類似）

1. ボール・テイラー 2. レイチェル・カーソン 3. アルド・レオポルド 4. ピーター・シンガー

答え合わせ・解説 No.8

問1	答え 2 年中行事	毎年特定の時期に繰り返される初詣や節分、お彼岸などの伝統的な行事は年中行事と呼ばれる。これに対し、誕生、成人、結婚、葬儀など、個人の生涯の節目（ライフステージの移行期）に行われる儀礼は通過儀礼（イニシエーション）と呼ばれ、両者は日本の伝統的な生活文化において区別される。
問2	答え 1 ニーチェ	キリスト教的な道徳を弱者の怨恨（ルサンチマン）に由来する「奴隷道徳」として批判し、神の死を宣告して、自らの価値を自ら創造する「超人」や「カへの意志」による生の肯定を主張した。
問3	答え 3 土地倫理	アルド・レオポルドが提唱したこの思想は、人間を生物共同体の一メンバーとして位置づけ、土地（土壌、水、植物、動物）全体に対する道徳的責任を説くものである。経済的価値だけでなく、生態系全体の健全性や美、安定性を維持することを重視する。
問4	答え 4 生命への畏敬	シュヴァイツァーは、自己の生命を維持しようとする意志と同様に、他者や他の生物も「生きようとする生命」を持っていると考えた。このすべての生命に対して愛と尊敬を抱き、それを尊ぶことを「生命への畏敬」と呼び、人間の根源的な責任であると主張した。
問5	答え 4 帰納法	個別の具体的な事実や経験から、それらに共通する一般的な法則や結論を導き出す推論方法は帰納法と呼ばれる。前提となる個別の事実が正しくとも、導き出される結論が常に100%確実とは限らないという特徴（不確実性）を持つ。一方、一般的な前提から三段論法などを用いて論理的に個別の結論を導く方法は演繹法と呼ばれる。
問6	答え 2 天文対話	コペルニクスの地動説（太陽中心説）とプトレマイオスの天動説（地球中心説）について、登場人物たちの対話形式で論じた著作である。著者は実験と観察に基づく定量的アプローチを重視し、近代自然科学の基礎を築いたが、本書の出版によりカトリック教会から異端審問にかけられ、地動説の撤回を求められた。
問7	答え 4 ヒューマンイズム	14世紀からイタリアを中心に始まったルネサンスの根底には、中世の神中心・教会中心の権威主義的な人間観から脱却し、ギリシア・ローマの古典古代の文化を手がかりにして、人間らしい生き方や個性の自由な開花を求めようとする精神があった。この人間中心の精神はヒューマンイズム（人文主義）と呼ばれる。芸術分野においても、遠近法などを用いて現実世界や人間の肉体の美しさをありのままに表現する試みがなされた。
問8	答え 1 道家	人為的な価値判断や儒家の説く道徳を否定し、あるがままの自然な生き方を重視した学派である。美と醜、善と悪などの対立する概念は、人間が勝手に作り出した相対的なものにすぎず、互いに依存し合って生じる逆説的な関係にあると捉えた。
問9	答え 2 源信	平安中期の僧である源信は、著書『往生要集』において「厭離穢土・欣求浄土」を説き、極楽往生の手立てとして阿弥陀仏の姿や極楽を心に思い描く「観想念仏」を重視した。これはのちに口称念仏（専修念仏）を唱える法然らに大きな影響を与えた。
問10	答え 3 アルド・レオポルド	『野生のうたが聞こえる（砂郡の暦）』の著者であり、従来人間中心主義的な自然観を批判し、生態系全体（土地）に道徳的価値を認める「土地倫理」を提唱した。これはディープ・エコロジーなど、後の環境倫理思想に大きな影響を与えた。